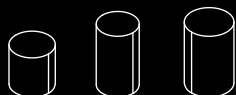
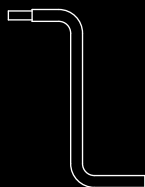
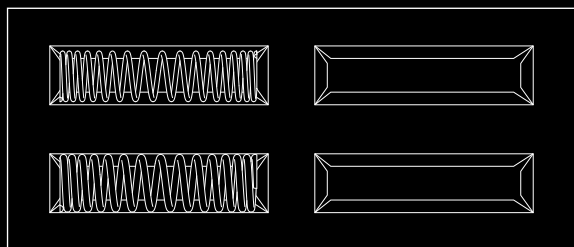
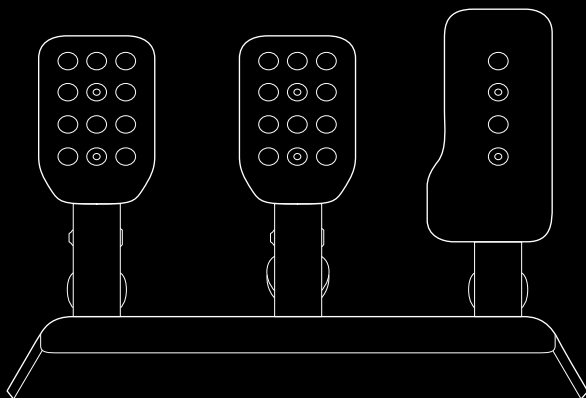


PROレーシングペダル

クイックスタートガイド



logicool 



保証書



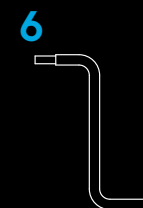
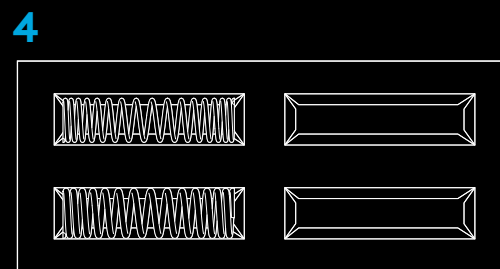
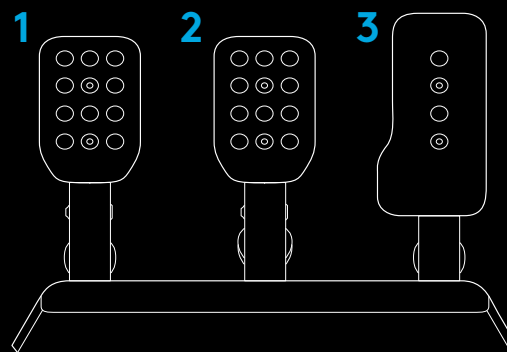
この保証書は再発行いたしませんので大切に保管して下さい。

製品名	Logicool® PRO RACING PEDALS	ご購入日	年 月 日
型番	G-PRP-001	販売店名	
保証期間	ご購入日から2年間		
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒	
	電話番号	- -	
			印

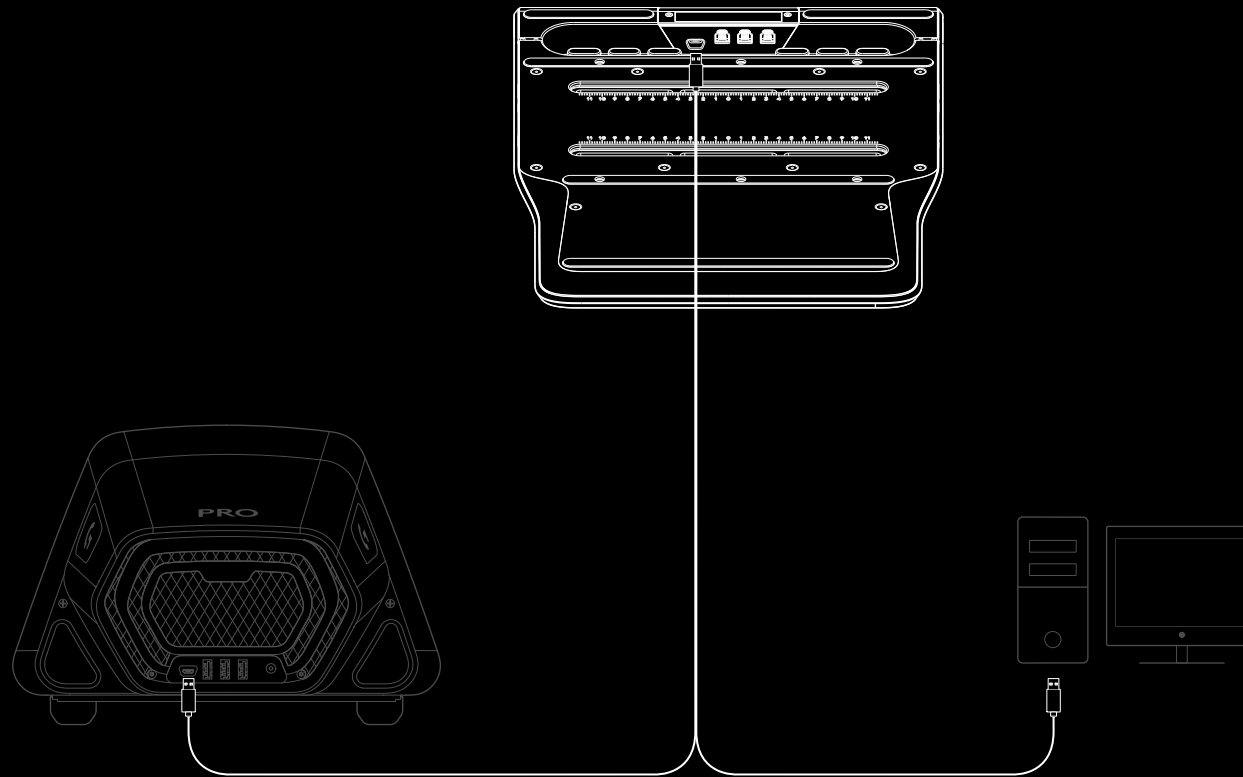
620-009771.002

機能

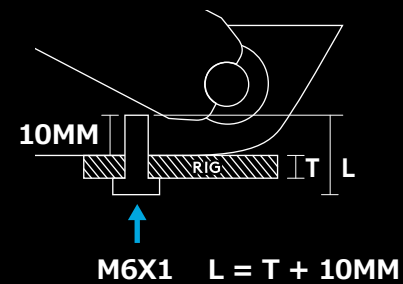
- 1 クラッチ ペダル
- 2 ブレーキ ペダル
- 3 アクセルペダル
- 4 スプリング (オプション)
- 5 潤滑油
- 6 六角棒スパナ
- 7 USBケーブル
- 8 ブレーキエラストマー (オプション)



接続および取り付け

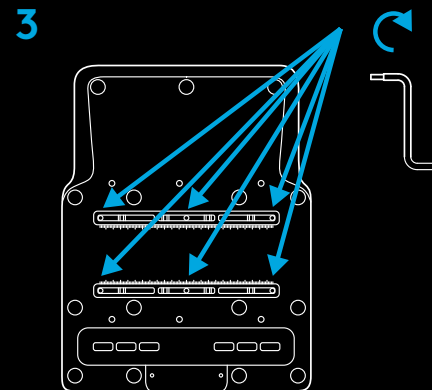
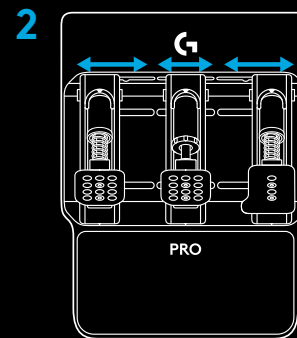
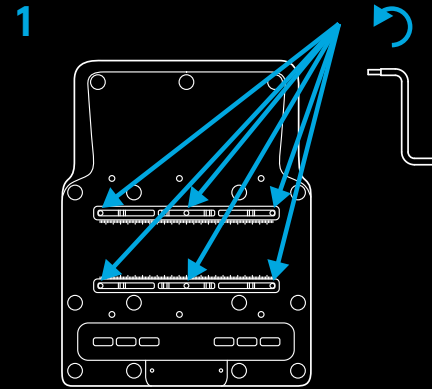


シミュレーションレーシング装置 / 座席に取り付ける場合、使用するM6ボルトについて最大10mmの深度を考慮してください。ペダルを取り付けるプレート / プラットフォームの厚さを書き留めて、それを10mmに追加すると、必要なM6ボルトの長さが分かります。M6ボルトの標準長さによって、ボルトを装置に取り付ける時に、ワッシャを使って、より長いボルトがペダルユニットの奥に入ってしまうのを防ぐ必要がある場合があります。ボルトは手で締めるだけで十分であり、電動工具を使ってボルトを締める必要はありません。



ペダル間隔の調節

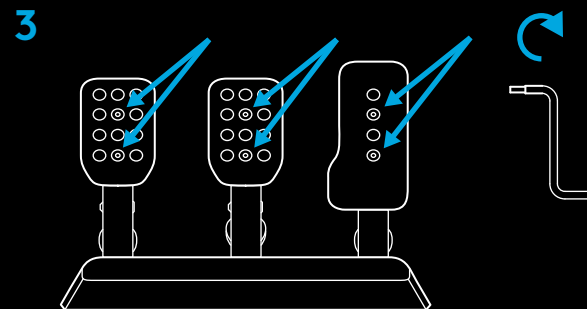
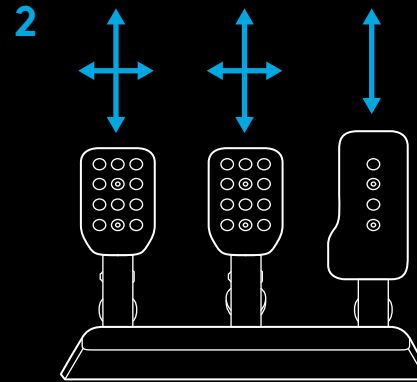
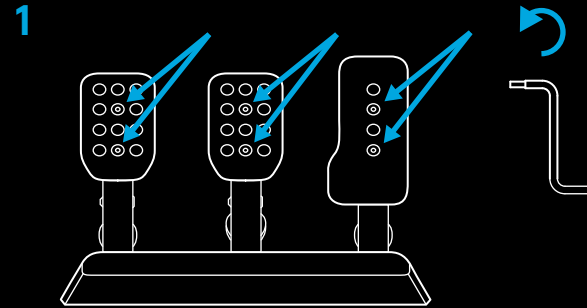
同梱の六角棒スパナを使って、ペダルセット底面の2本のボルトを緩めてから、各ペダルモジュール間が希望の間隔になるまでモジュールをスライドさせます。全てのボルトを締めて、全てのペダルモジュールが所定の位置に固定され、レース中に移動しないことを確認します。



ペダルフェイスの調節

ペダルフェイスを調節して、ペダルフェイス間の間隔と、ペダルアーム上のペダルフェイスの高さを微調整することもできます。クラッチとブレーキペダルフェイスは、供給された穴を使って、水平および垂直に調節できます。アクセルペダルは垂直に調節できます。

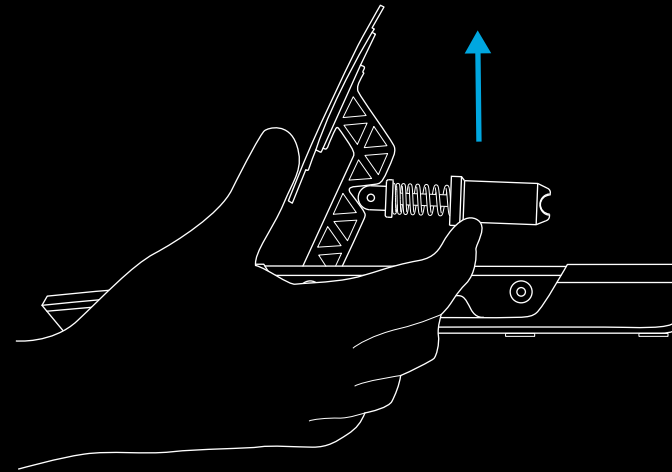
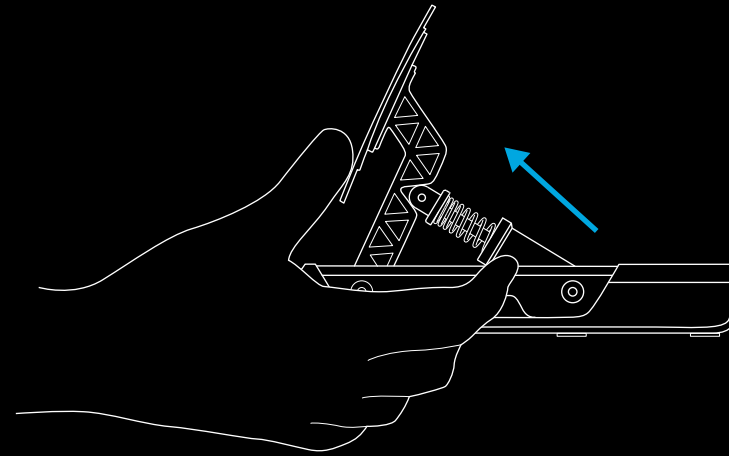
ペダルフェイス内の2本のボルトを緩めます。ボルトを取り外し、ペダルフェイスを希望の位置に再配置して挿入し、ボルトを固定します。



ペダルスプリングカの調節

全てのペダルには、アクセサリボックスに入っているスプリング（アクセルとクラッチ）およびエラストマダンパー（ブレーキ）を使って、様々なレベルのスプリング力を加えることができます。このプロセスは3つのペダルに関して全て同じであり、ペダルモジュール内の位置からピストンを持ち上げる操作が伴います。

これを達成するための最も簡単な方法は、前面からペダルフェイスを手で包み込み、ピストン本体の刻み付きエッジをつかみます。それからピストンを握って、この装置としてペダルフェイス / アームを使ってロック位置から外して、ピストンがあるペダルモジュール内の空洞から持ち上げます。



アクセルとクラッチ

ピストンがメインペダルモジュールから外れたら、スチールロッドから引いて、スプリングを外します。ボックス内には4つのスプリングがあり、その内2つは、クラッチペダルとアクセルペダルに既に取り付けられています。他のスプリングの1つを選んで、プロセスを逆に行います：

スプリングをスチールロッド上に押してから、ピストンをロッドに押し戻し、スプリングが2つのロケーターによってとらえられていることを確認します。

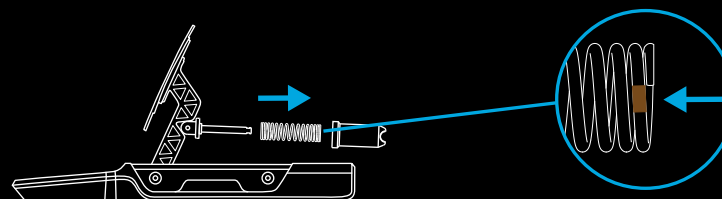
それから、ピストンを所定の場所に再度挿入し、取り出したプロセスを逆の順序で行います：ペダルフェイス / アームをてこ装置として使ってピストンをつかんでから、所定の位置に下げ、ピストン底面が正しい向きでしっかり配置されていることを確認します。

注：

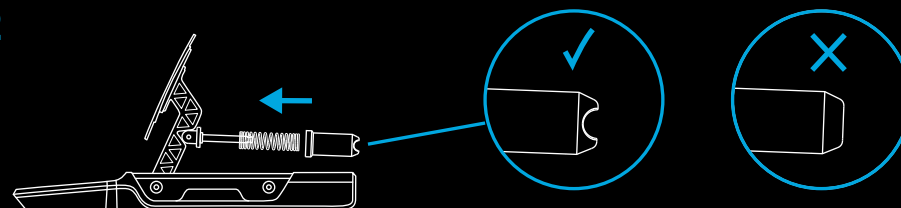
ピストンを再配置する時は、ペダルを数回押して、動きがスムーズであり、ノイズが聞こえないことを確認します。ペダルを押した時にノイズが聞こえる場合は、スプリングを所定の位置でわずかに回転させて、ペダルを押します。ノイズがなくなるまでこの操作を続けます。

1

11.4kgf	8.3kgf
6.9kgf	3.9kgf



2

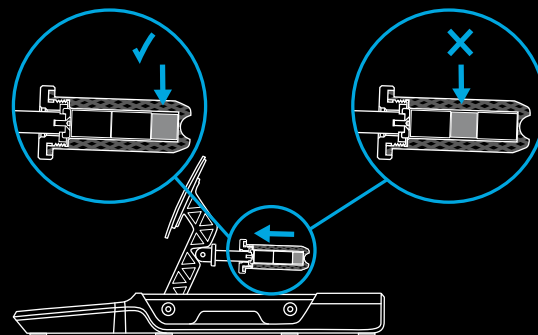
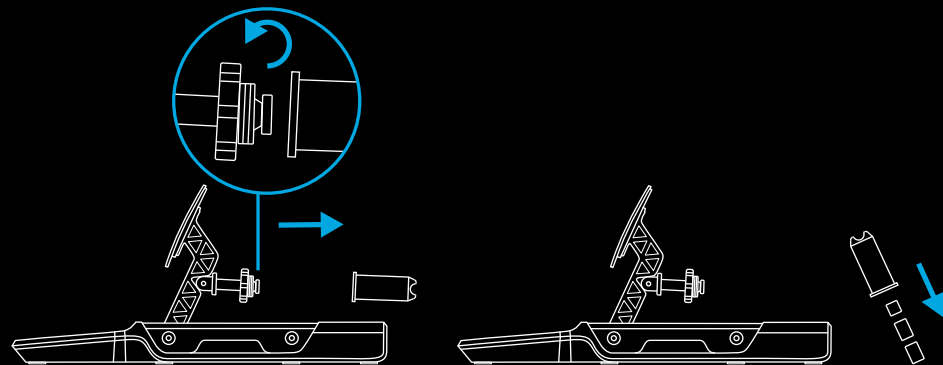


ブレーキ

ブレーキは、アクセサリボックス内にあるエラストマーダンパーを使用するという点で、アクセルやクラッチとは異なります。ただし、手順は単純です。ピストンを持ち上げてペダルモジュールから取り外されたら、内部にあるエラストマー部品にアクセスするために、ピストンを開く必要があります。これを行うには、ピストン上部の刻み付きキャップを片手でつかんでから、キャップからピストン本体をねじって外します。

ピストン本体がキャップから外れたら、逆さまにして、エラストマー部品を振り出します。これらは潤滑油のため少しべたつきがあるため、手を拭くための布などを用意しておいてください。










ピストン本体には3つのエラストマーまたはフォームがあります：2つは同じサイズで、もう1つはわずかに小さい部品です。小さい方はピストン本体の内部に常に必要があります。他の2つはブレーキペダルの全体的な感触を決定し、移動範囲を大きくして極めてソフトになるように構成したり、または一部の本物のレースカーと同じように固くし、移動を制限することもできます。また、小さい部品はピストン底面に常に必要があります：







この表に記載されているように、エラストマーの様々な組み合わせを使って、ブレーキの感触を変えることができます：

小さいフォーム部品が2つ供給され (1つはソフト、もう1つはハード)、これらの1つのみを、大きいエラストマー部品2つと組み合わせて使うことができます。

A

A + B + 				
		18mm	24mm	29mm
	18mm		28mm	33mm
	24mm	28mm		39mm
	29mm	33mm	39mm	

A + B + 				
		19mm	25mm	30mm
	19mm		29mm	34mm
	25mm	29mm		41mm
	30mm	34mm	41mm	

注:

PROペダルがシミュレーション装置 / 座席にハードマウントされている場合、**ソフトなベージュの部品**を含む組み合わせの使用は推奨されません。これは、エラストマーの損傷につながる可能性があるためです。

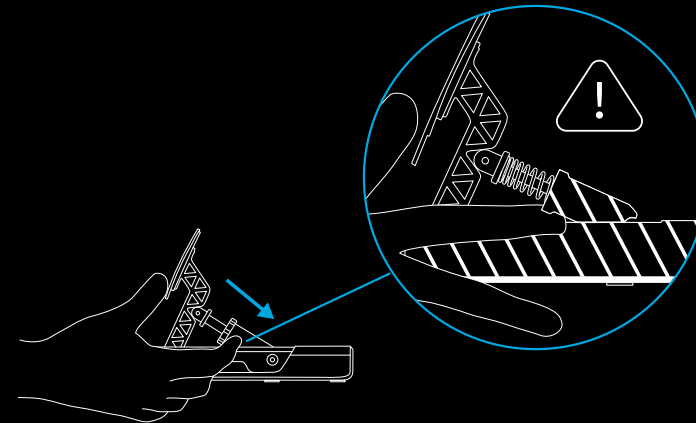
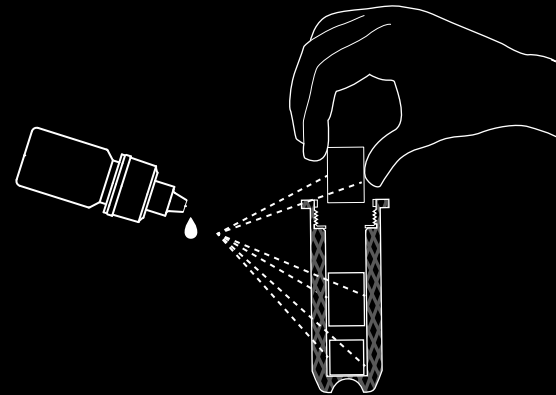
逆に、デスクベースのシナリオでペダルを使っている場合、ハードエラストマーの使用は推奨されません。ペダルが同じ方法で固定されていない限り、これによって、ブレーキをかけた時にペダルが傾いたり、ペダルがスライドして離れたりする場合があります。

エラストマー部品を選択したら、部品の側面に付属の潤滑油を少量つけて、ピストン本体に再度挿入します。小さい部品を最初に挿入してください。エラストマーの各側面に2~3滴つけて、ボトル先端をつかって広げれば十分なはずです。

エラストマー部品をピストン本体に戻したら、ブレーキペダルモジュール上のキャップに再度取り付けてから、他のペダルと同じ方法で所定の位置に挿入し直すことができます。

安全に関する警告:

エラストマーの非常に硬い部品を使う場合 (および、特に小さいハードフォームダンパーを使用する場合)、ピストン本体を押し込んで再度所定の位置に挿入するには、ある程度の強度が必要になります。ピストン本体とペダルモジュールケーシングの間に指が挟まらないように注意してください。本マニュアルに説明されている推奨手順によって、これを避けられるはずですが。



カスタムペダルセットアップ

PROレーシングペダルは、誰もが好きな方法でペダルモジュールを取り付けられるように設計されています。ペダルモジュールは、取り付けられたメインペダルベースから完全に取り外してから、ニーズに合った向きで、カスタムシミュレーション装置に取り付けることができます。

クラッチとブレーキを逆にして、アクセルを床設置にしたセットアップを作ることも完全に可能です。これを実現するのに必要なものは、ペダルモジュールとペダルハブだけです。

まず、ペダルモジュールをハブから取り外します。

次に、ペダルモジュールをペダルベースに保持しているボルトを外します。プロセス中にボルトが落下しないように気を付けてください。これらをベースから持ち上げて、ペダルベース内の穴に各モジュールのケーブルを通します。ケーブルが絡まないようにします。

次に、ペダルハブをペダルベースに保持しているネジを外して、ベースから持ち上げます。

これで、必要に応じてペダルモジュールをカスタムシミュレーション装置に取り付けられるようになりました - ペダルハブに接続してから、ハブをPCに接続するか、または対応ロジクールレーシングホイール（お持ちの場合）の背面に直接接続するだけです。

G HUB設定

PROレーシングペダルは、PC上のG HUBソフトウェアを使って構成することができます（ペダルがPCに直接接続、または対応ロジクールレーシングホイールに接続されている場合を含む）。

ペダルの感度と、ロードセルを搭載したブレーキペダルの100%の軸出力を生み出すのに必要な圧力の量を調節することができます。

感度

感度スライダーによって、ペダル応答の線形性を変えることができます。これを50のままにした場合、ペダルの物理的動作とレーシングタイトルへの軸出力間の線形応答が1:1になります。これより上または下に調節すると、軸出力が曲線になります。

- 50から100に上げると、ペダルの移動が開始した時の反応が非常に速くなります（つまり、最初の軸応答の増加が非常に速くなります）
- 50から1に下げると、ペダルの移動が開始した時の反応が非常に遅くなります（つまり、最初の軸応答の増加が非常に遅くなります）

一般的に、この設定を50のままにすることをお勧めしますが、柔軟に実験を行うこともできます。G HUB内でペダルの実際の応答を確認することができます。ペダルを押すと、軸応答インジケータが変化するため、行った調節の結果を簡単に確認することができます。

ブレーキ力

これによって、ブレーキペダルが100%の軸出力を実現するために必要な圧力が変わります。デフォルト値は30で、これはPROレーシングペダルについては30kgの力に相当します。このため、論理的には、これを最大の100に設定すると、100%の軸出力を実現するには100kgの力が必要になります。

使用する力の量は非常に主観的ですが、以下の要素を考慮する必要があります。

- ペダルがレーシング装置に取り付けられている、またはフロア上にある
- ペダルを使用している人の実際の強度
- ブレーキペダルに取り付けたエラストマーの組み合わせ

フロア設置のシナリオでは、ペダルが固定されていない限り(例えば、デスクの下の壁に対して押されているなど) 30kgが最大になる可能性が高くなります。実際に、使用中にペダルがスライドして離れるのを防ぐには、多くの場合低い値が必要になります。

装置ベースのシナリオでは、制限は、装置、ペダルを使う人、およびユーザーが選択したエラストマーの全体的な強度に純粋に左右されます。本マニュアルで前に説明したように、30kgを超える力を設定する場合は、**よりソフトなベージュの部品**を含むエラストマーの組み合わせを使用しないことを強くお勧めします。さもないと、長時間の使用により、損傷が生じる場合があります。

画面上の軸応答の表示により、様々な力設定を簡単に実験して、自分に最適な設定を判断することができます。特にABSのないレーシングカーの場合、100%の軸出力を簡単に実現できないように力を設定することが推奨されます - 常にブレーキの底に達する場合、ホイールが動かなくなり、グリップを失い、トラックから逸脱することになります。

注:

統合ディスプレイと共に対応ロジクールレーシングホイールに接続されている場合、ホイールを使ってブレーキ力の設定を調節したり、ブレーキペダルの応答出力を確認したりすることができます。

組み合わせペダル

これは通常、非常に古いレーシングタイトルを使用している場合にのみ必要です。古いレーシングホイールのペダルには、多くの場合、ブレーキペダルとアクセルペダルがなく、各ペダルは同じ軸の半分に相当します。組み合わせペダルモードでは、PROレーシングペダルのデフォルト構成を、ブレーキとアクセルの完全に別個の軸から組み合わせモードに変更します。これによって、別個の軸を搭載したペダルをサポートしない古いタイトルでもペダルを使用することができます。

このため、大多数のレーシングタイトルでは、PROレーシングペダルを最大限に活用するために、このボックスにチェックマークを付けないことを強くお勧めします。

推奨されるメンテナンス

PROレーシングペダルは、数百時間動作を継続し、使い始めた時と同じ快適性を維持できるように設計されています。ただし実際の車と同様に、簡単な、ほぼ定期的なメンテナンスを行うことで、常にきれいな状態を保つことが推奨されます。

定期的なメンテナンス (週1回)

ベースと各ペダルを、湿らせた糸くずの出ない布でクリーニングします。布は湿らせすぎないように注意してください

200時間ごと

汚れのない布またはキッチンタオルを使って、たまった過剰な潤滑油を取り除きます (特に ブレーキ ペダル上)。新しい潤滑油 (少量) を再度つけて、ペダルが継続的にスムーズに動作する ようにします。

付属の潤滑油がなくなったら、ご自分で調達することができます。ただし、あらゆる問題を防ぐために、シリコンベースの潤滑油を使う必要があります。

石油ベースの潤滑油またはガソリンおよび炭化水素溶剤は使用してはいけません。ペダルに使用されているコンポーネントが劣化します。

質問がある場合:

logitechG.com/support/pro-pedals



© 2022 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。
Logicool、Logicool Gおよび各ロゴは Logitech Europe S.A. および/または米国およびその他の国における関連会社の登録商標です。
その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、このマニュアルに存在する 可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。ここに記載されている情報は予告なく変更される場合があります。

WEB-621-002140 002